

平成23年11月29日公表

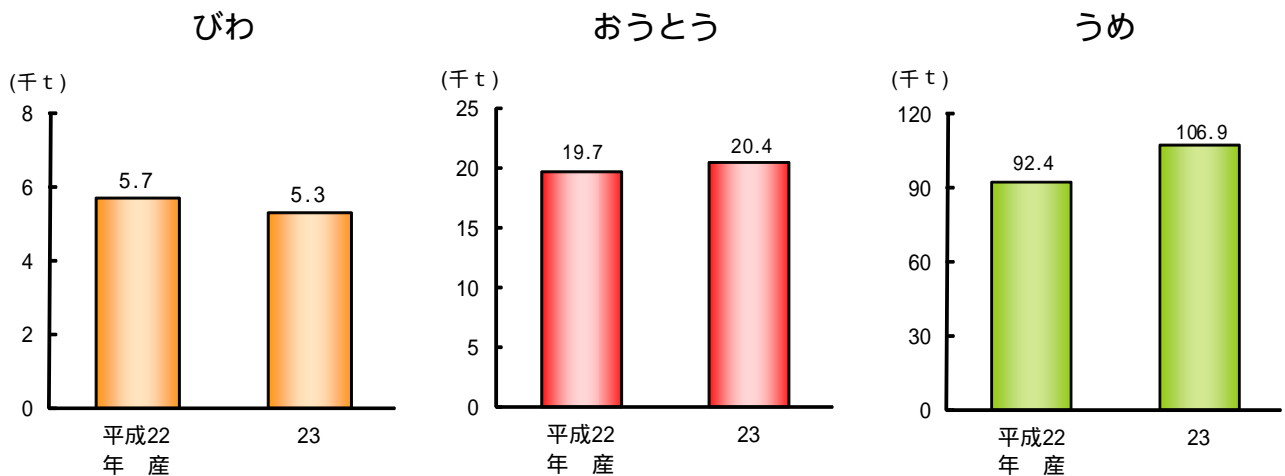
平成23年産びわ、おうとう、うめの結果樹面積、 収穫量及び出荷量

- うめの収穫量は、前年産に比べて16%増加 -

【調査結果の概要】

- 1 びわ
びわの収穫量は5,300 tで、開花期の天候不順の影響により、結果数が減少したこと等から、前年産に比べて400 t（7%）減少した。
- 2 おうとう
おうとうの収穫量は2万400 tで、開花期の天候に恵まれ、結果数が増加したこと等から、前年産に比べて700 t（4%）増加した。
- 3 うめ
うめの収穫量は10万6,900 tで、開花期の天候に恵まれ、結果数が増加したこと等から、前年産に比べて1万4,500 t（16%）増加した。

図1 びわ、おうとう、うめの収穫量の推移（全国）



収穫量とは、収穫したもののうち、生食用、加工用として流通する基準を満たすものの重量をいう。

注：本年産は主産県を対象に調査を実施しており、全国値については主産県の結果を基に推計した。

この統計調査結果で使用している統計表は、政府統計の総合窓口(e-Stat)の「統計データ新着情報」でご覧いただけます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

調査結果の活用

- ・ 果実を安定的に供給するための生産数量目標の策定及びその達成に向けた各種対策の推進のための資料
- ・ 農業災害補償法に基づく共済事業の適正な運営のための資料

累年データ

1 びわ

区 分	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	卸売価格
					(5 月 ~ 6 月)
	ha	kg	t	t	円/kg
平成 14 年産	2,080	493	10,300	8,230	632
15	2,020	457	9,240	7,420	743
16	1,940	334	6,470	5,080	871
17	1,890	356	6,730	5,380	879
18	1,780	343	6,100	4,880	922
19	1,740	328	5,710	4,590	866
20	1,710	416	7,110	5,780	752
21	1,680	396	6,650	5,410	761
22	1,630	350	5,700	4,680	855
23 (概数)	1,600	331	5,300	4,350	872

資料：農林水産省統計部『果樹生産出荷統計』、『青果物流通統計』（以下の統計表において同じ。）。

2 おうとう

区 分	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	卸売価格
					(5 月 ~ 7 月)
	ha	kg	t	t	円/kg
平成 14 年産	3,970	536	21,200	18,900	1,496
15	3,990	482	19,300	17,100	1,627
16	4,180	393	16,400	14,400	1,908
17	4,380	436	19,100	16,900	1,481
18	4,490	464	20,800	18,400	1,481
19	4,490	370	16,600	14,900	1,963
20	4,490	379	17,000	15,000	1,841
21	4,450	373	16,600	14,700	1,757
22	4,470	441	19,700	17,500	1,350
23 (概数)	4,440	459	20,400	18,000	1,343

3 うめ

区 分	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	卸売価格
					(6 月)
	ha	kg	t	t	円/kg
平成 14 年産	17,900	628	112,600	96,200	323
15	18,200	485	88,300	75,300	518
16	17,300	658	113,600	95,600	445
17	17,800	690	123,000	105,100	393
18	18,000	664	119,700	101,100	279
19	17,500	689	120,600	102,800	264
20	17,400	695	121,000	103,600	335
21	17,100	674	115,200	99,700	340
22	16,900	547	92,400	79,700	379
23 (概数)	16,600	644	106,900	92,700	350

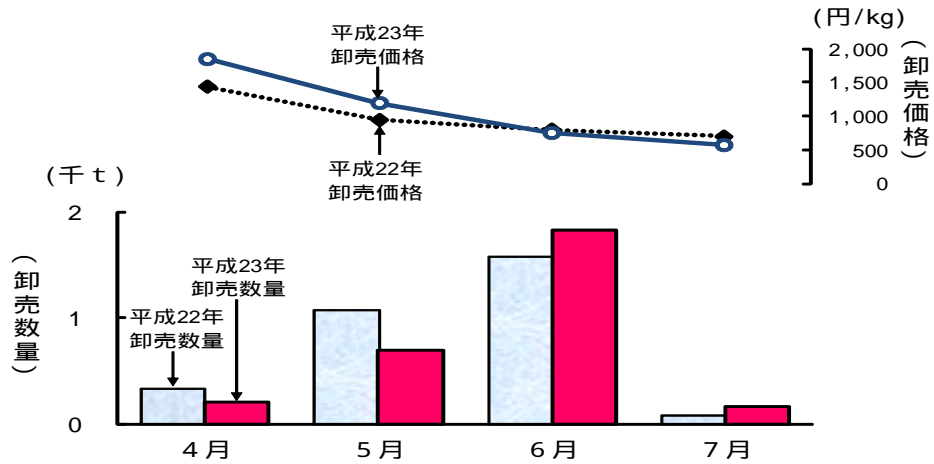
結果樹面積とは、生産者が当該年産の収穫を意図して結果させた栽培面積をいう。

出荷量とは、収穫量から生産者の自家消費、生産物を贈与した量、収穫後の減耗等を差し引いた重量をいう。

関連データ

図 びわ、おうとう、うめの卸売数量及び卸売価格の推移（主要卸売市場・国産）

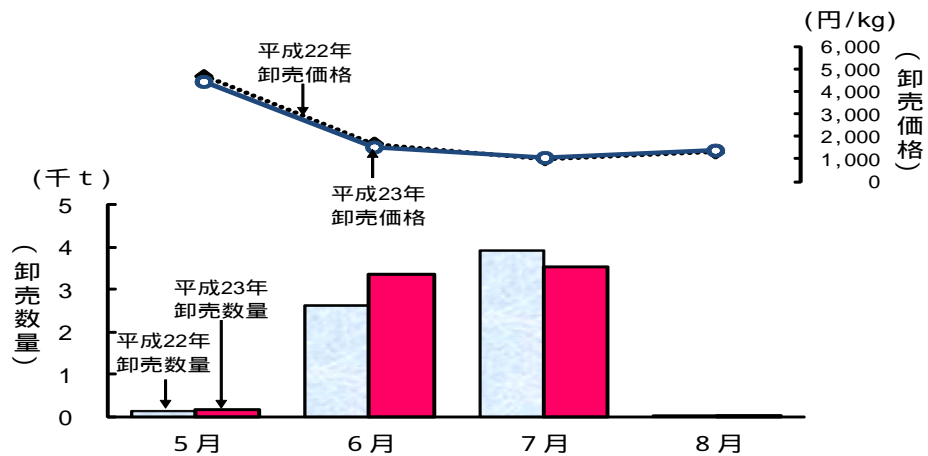
1 びわ



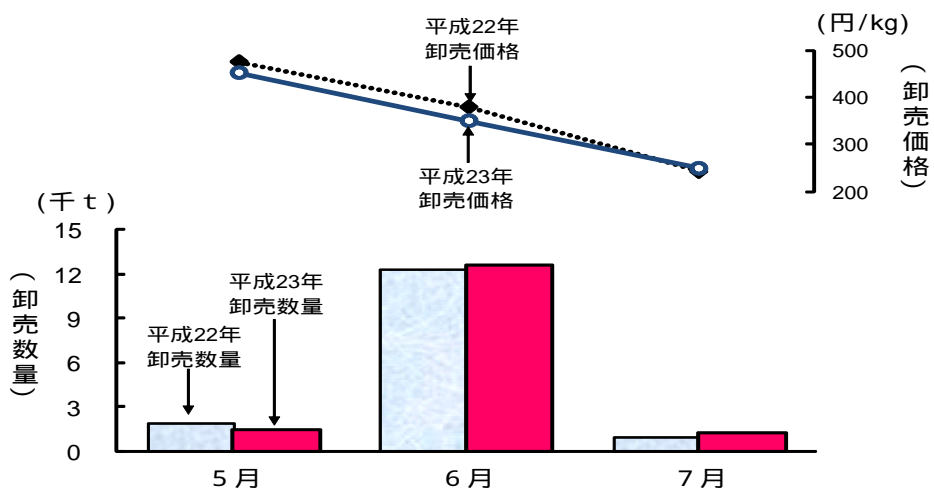
資料：農林水産省統計部『青果物流通統計』

注：主要卸売市場とは、全国の主要都市に所在する青果物卸売市場の89市場をいう(以下のグラフにおいて同じ。)

2 おうとう



3 うめ



【調査結果】

1 びわ

平成23年産びわの収穫量は5,300 t、出荷量は4,350 tで、前年産に比べてそれぞれ400 t (7%)、330 t (7%) 減少した。

(1) 結果樹面積は1,600haで、前年産に比べて30ha (2%) 減少した。

これは、廃園等が進んだためである。

(2) 10a当たり収量は331kgで、前年産に比べて5%下回った。

これは、長崎県等において開花期の天候不順の影響により、結果数が減少したこと等による。

(3) 都道府県別の収穫量割合は、長崎県が31%、千葉県が12%、香川県が10%、和歌山県及び鹿児島県が8%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図2 びわの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移

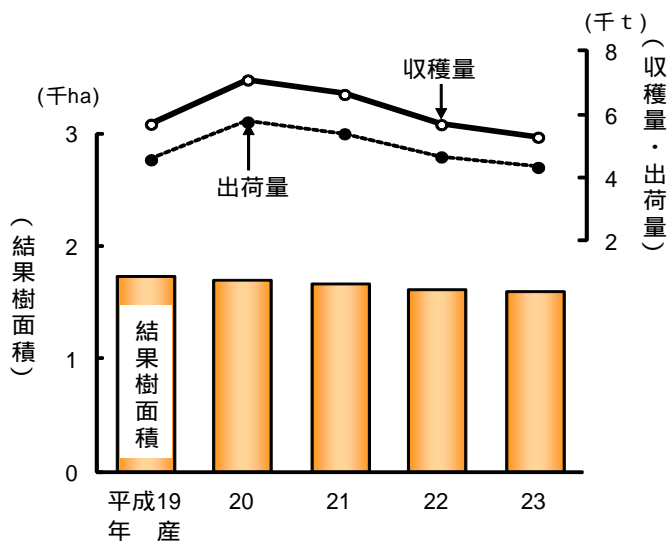


図3 びわの都道府県別収穫量割合

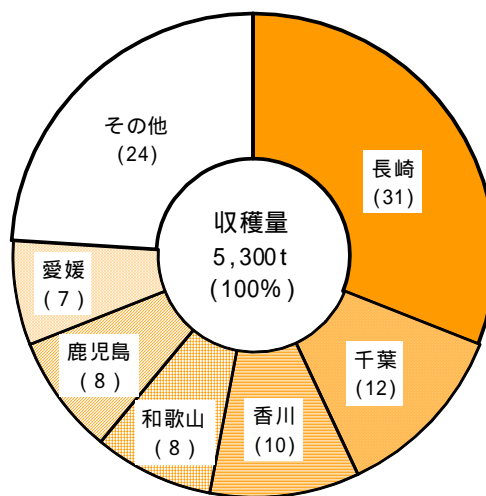


表1 平成23年産びわの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量 (全国)

品目	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比			
					結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
びわ	1,600	331	5,300	4,350	98	95	93	93

注：全国値については主産県の結果を基に推計した（以下の表において同じ。）。

2 おうとう

平成23年産おうとうの収穫量は2万400t、出荷量は1万8,000tで、前年産に比べてそれぞれ700t(4%)、500t(3%)増加した。

(1) 結果樹面積は4,440haで、前年産に比べて30ha(1%)減少した。

(2) 10a当たり収量は459kgで、前年産に比べて4%上回った。

これは、山形県において開花期の天候に恵まれ、結果数が増加したこと等による。

(3) 都道府県別の収穫量割合は、山形県が全国の約8割を占めている。

図4 おうとうの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移

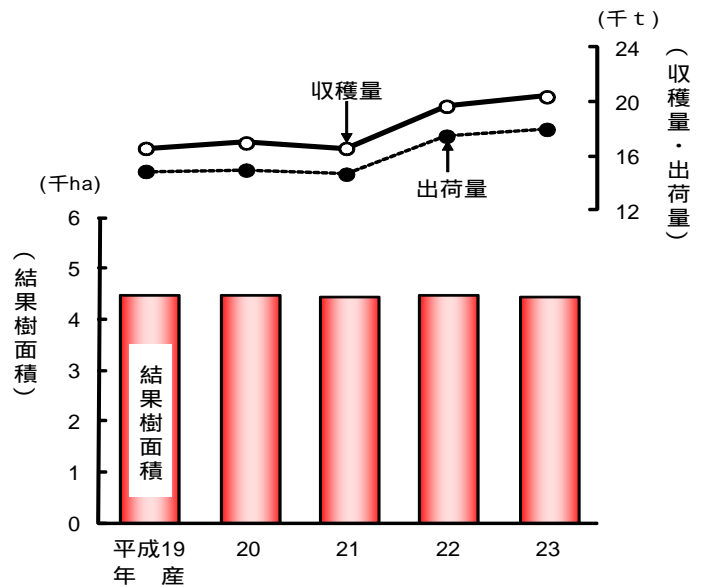


図5 おうとうの都道府県別収穫量割合

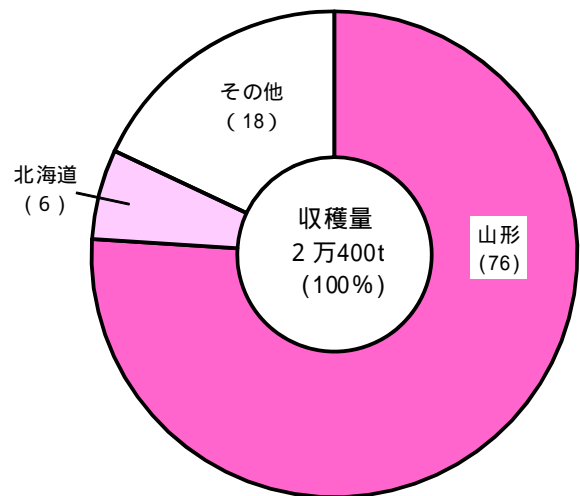


表2 平成23年産おうとうの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量(全国)

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	対前年産比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
おうとう	4,440	459	20,400	18,000	99	104	104	103

3 うめ

平成23年産うめの収穫量は10万6,900 t、出荷量は9万2,700 tで、前年産に比べてそれぞれ1万4,500 t（16%）、1万3,000 t（16%）増加した。

(1) 結果樹面積は1万6,600haで、前年産に比べて300ha（2%）減少した。これは、廃園等が進んだためである。

(2) 10a当たり収量は644kgで、前年産に比べて18%上回った。これは、和歌山県等において開花期の天候に恵まれ、作柄の悪かった前年産に比べて結果数が増加したこと等による。

(3) 都道府県別の収穫量割合は、和歌山県が全国の約6割を占めている。

図6 うめの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移

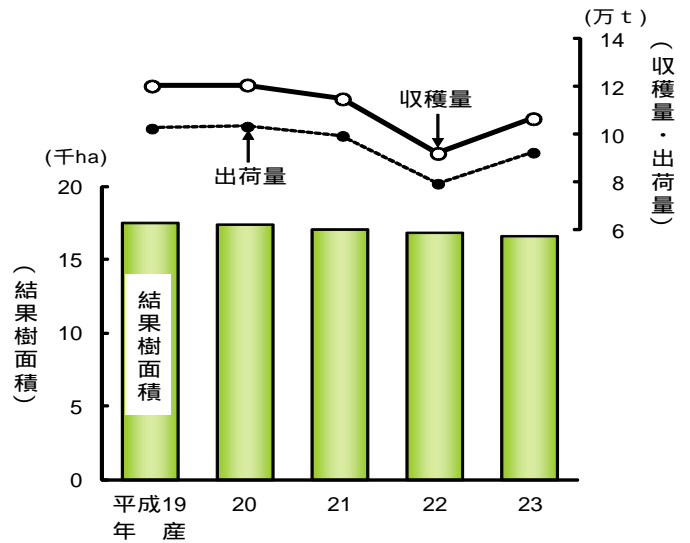


図7 うめの都道府県別収穫量割合

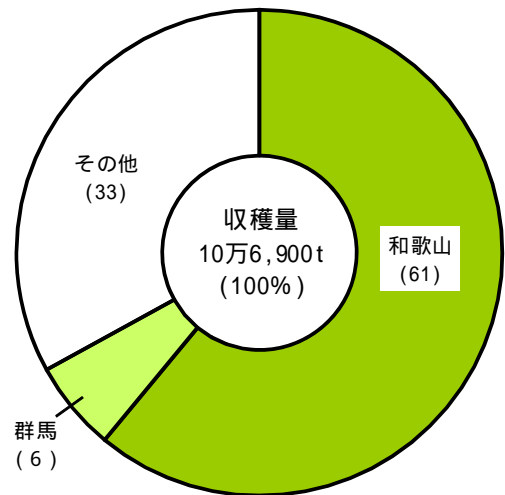


表3 平成23年産うめの結果樹面積、10 a 当たり収量、収穫量及び出荷量（全国）

品 目	結果樹面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比			
					結果樹面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
う め	16,600	644	106,900	92,700	98	118	116	116

【統計表】

1 びわ

全 国 都 道 府 県	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比			
					結果樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
全 国	1,600	331	5,300	4,350	98	95	93	93
うち 千 葉	162	406	658	613	101	123	124	123
兵 庫	46	409	188	155	100	92	92	93
和 歌 山	59	747	441	373	100	100	100	99
香 川	87	595	518	438	94	114	107	108
愛 媛	92	428	394	326	95	113	107	109
長 崎	572	284	1,620	1,400	100	80	79	79
鹿 児 島	209	208	435	315	96	97	93	91

注：主産県を対象に調査を実施しており、全国値については主産県の結果を基に推計した（以下の統計表において同じ。）。

2 おうとう

全 国 都 道 府 県	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比			
					結果樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
全 国	4,440	459	20,400	18,000	99	104	104	103
うち 北 海 道	513	240	1,230	1,130	nc	nc	nc	nc
山 形	2,910	537	15,600	13,700	100	109	109	109

3 うめ

全 国 都 道 府 県	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比			
					結果樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
全 国	16,600	644	106,900	92,700	98	118	116	116
うち 群 馬	1,090	609	6,640	5,770	98	119	117	118
神 奈 川	443	438	1,940	1,670	nc	nc	nc	nc
福 井	499	300	1,500	1,340	100	136	136	139
奈 良	366	702	2,570	2,460	98	160	157	159
和 歌 山	5,140	1,270	65,300	63,000	100	115	116	116
徳 島	230	419	964	782	95	126	119	124

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作況調査（果樹調査）として実施したものであり、果樹の結果樹面積、収穫量、出荷量等の現状とその動向を明らかにし、食料・農業・農村基本計画における果実を安定的に供給するための生産数量目標の策定及びその達成に向けた生産対策、需給調整・流通改善対策の推進、農業災害補償法に基づく共済事業の適正な運営のための資料を整備することを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

平成21年産（5年周期の全国調査年）の全国出荷量のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び果樹共済事業を実施する都道府県を調査対象（主産県）としている。

(2) 調査対象の選定

調査の対象は、調査対象県において、調査対象品目の集出荷を行っている農協等の関係団体（関係団体調査）及び標本経営体（標本経営体調査）としており、その選定については、以下のとおりとした。

ア 関係団体調査（全数調査）

全ての調査対象となる関係団体とした。

イ 標本経営体調査（標本調査）

2010年農林業センサスにおいて、調査対象品目を販売目的で栽培した農林業経営体を無作為に抽出（母集団名簿を栽培面積順に並べ替えを行い、設定した栽培面積規模別の標本数に応じて等間隔に抽出する方法（系統抽出法）により抽出）した。

(3) 調査対象数

	関係団体調査			標本経営体調査				
	団体数	回収数	回収率 = /	母集団 経営体数	標本数	抽出率 = /	有効 回収数	有効 回収率 = /
	団体	団体	%	経営体	経営体	%	経営体	%
びわ	56	53	94.6	2,888	280	9.7	168	60.0
おうとう	116	99	85.3	10,914	321	2.9	221	68.8
うめ	59	44	74.6	10,445	534	5.1	302	56.6

注：「有効回収数」は、回収があったもののうち、当年産において栽培がなかった経営体等を除いた数である。

3 調査事項

(1) 関係団体調査

結果樹面積及び出荷量

(2) 標本経営体調査

結果樹面積、収穫量及び出荷量

4 調査期日

収穫・出荷終了時

この調査の年産区分の主たる収穫期間は次のとおりである。

品目	主たる収穫期間
びわ	平成23年5月～6月
おうとう	平成23年5月～7月
うめ	平成23年6月

5 調査方法

結果樹面積の把握は、関係団体に対する往復郵送調査及び職員による巡回・見積りの方法、収穫量及び出荷量の把握は、関係団体及び標本経営体に対する往復郵送調査並びに職員による巡回・情報収集の方法による。

6 集計方法

結果樹面積は、関係団体調査及び巡回・見積りにより得られた結果を集計している。

収穫量は、往復郵送調査結果により算出した10a当たり収量を、必要に応じて巡回・情報収集結果により補完し、結果樹面積を乗じて算出している。

なお、往復郵送調査結果により算出した10a当たり収量については、調査対象品目について、関係団体が取り扱う数量の割合がおおむね8割以上の場合は団体調査結果を、おおむね8割未満の場合は標本経営体調査結果を採用している。

7 全国値の推計方法

全国値は、本年産の主産県の結果（結果樹面積については、平成23年10月に公表した「平成23年果樹及び茶栽培面積（7月15日現在）」における栽培面積に占める割合）と全国調査年（平成21年産）における全国に占める主産県の割合を基に推計している。

8 目標精度

本調査において、目標精度は設定していない。

9 用語の解説

- (1) 結果樹面積とは、生産者が当該年産の収穫を意図して結果させた栽培面積をいう。
- (2) 収穫量とは、収穫したもののうち、生食用、加工用として流通する基準を満たすものの重量をいう。
- (3) 出荷量とは、収穫量から生産者の自家消費量、生産物を贈与した量、収穫後の減耗等の量を差し引いた重量をいう。

10 利用上の注意

- (1) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数		6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1,000)	3 桁 (100)
四捨五入する桁（下から）		2 桁		1 桁	四捨五入 し ない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

- (2) 表中に用いた記号は以下のとおりである。

「nc」：計算不能

11 その他

この資料の数値は概数値である。確定した詳細な数値はホームページに掲載（平成24年12月予定）するとともに、その後刊行する『平成23年産果樹生産出荷統計』に掲載する。

なお、ホームページに掲載した後の正誤情報はホームページでお知らせする。

【ホームページ掲載案内】

各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類は「果樹」に分類しています。

【関連リンク】

果樹関係ページ： 農林水産省 > 組織・政策 > 生産局 > 園芸作物（野菜・果樹・花き） > 果樹のページ

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/>

果樹農業振興基本方針：

http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/f_sesaku/pdf/kihon-housin.pdf

問合せ先

本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 園芸統計班
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3680
(直通) 03-6744-2044

農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画管理官 広報普及班
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3589
(直通) 03-6744-2037